

**幼児理解****幼児期の特性**

幼児期は、家庭において親しい人間関係を軸にして営まれていた生活からより広い世界に目を向け始め、生活の場、他者との関係、興味や関心等が急激に広がり、依存から自立に向かう時期である。

## ○生活の場

幼児期は、運動機能が急速に発達し、活動意欲も高まる時期である。多くの幼児にとって幼稚園生活は、家庭から離れて同年代の幼児と毎日を過ごす初めての集団生活であり、生活の場が急速に広がり始める。日々の様々な出来事や多くの文化的な事物や事象、人々との関わり合いを通して、幼児は、成長に必要な多くの体験を積み重ねていくのである。

## ○他者との関係

幼児期は、家庭における人間関係だけでなく他の幼児や家族以外の人々の存在に気付き始め、次第に関わりを求めるようになってくる。特に、一人で活動するよりも、何人かの友達と一緒に活動することで、生活がより豊かに展開することを体験し、友達のいる楽しさに気付いていくことになる。幼児期には、自我が芽生え、自己を表出することが中心の生活から、幼稚園の友達や教師等と関わり合う生活を通して、他者の存在を意識し、自己を抑制しようとする気持ちも生まれるようになり、自我の発達の基礎が築かれていく。

## ○興味や関心

生活の場や人間関係の広がりに伴って、幼児は様々な事物や事象に出会い、幼児の興味や関心は大きな広がりを見せることになる。また、他の幼児や教師と共に、様々な事物や事象に関わることにより、その事物や事象に対する興味や関心は一層広げられ、高められていく。

幼児期には、生活に必要な能力や態度などを幼児自身が自発的・能動的に環境と関わりながら、生活の中で状況と関連付けて身に付けていく重要性が指摘されている。そのためには、遊びを中心とした生活の中で、幼児自身が自らの生活と関連付けながら、好奇心を抱くこと、必要性を感じる事が重要である。

**幼児理解の方法**

幼稚園教育は、幼児の育ちを知ることから始まる。幼児一人一人の発達の特性を理解することが重要である。幼児の発達は、心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていくものである。また、幼児の生活経験はそれぞれ異なる。これらのことを考慮して、幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすることが大切である。

幼児を理解するには、幼児期の発達の特徴を理解した上で、幼児の行っている活動の様子を次のような視点から総合的に捉えることが大切である。

- よさを捉える。
- 活動の意味を理解する。
- 発達する姿を捉える。
  - ・幼児が発達しようとしている姿を読み取る。
  - ・幼児の行動を通して、内面を理解し、読み取る。
  - ・一般的な発達の傾向を理解し、一人一人の幼児の発達を見る。
- 集団と個の関係を捉える。
- 家庭環境や今までの成長の様子を把握する。

## 家庭との連携

教育活動の一層の充実を図るためには、幼児一人一人を理解し、教育・保育に対する保護者の関心や理解を深め、教師と保護者の相互理解を図ることが大切である。そのためには、日頃から学級経営の考え方への理解を得るとともに、保護者等の声に耳を傾けるなど、幼稚園と家庭との密接な連携が必要である。

## 家庭訪問

家庭訪問には、一斉に実施する定期訪問と、日常の教育活動の一環として必要に応じて行う臨時訪問がある。通常、年度当初に実施されている定期訪問では、保護者と初対面になる場合が多い。信頼関係を築く第一歩としたい。

## 学級懇談会

学級懇談会は、保護者が来園し、担任と個別に又は学級の保護者全員と懇談するものである。保護者と担任が幼児の望ましい成長を願い、園と家庭との連携を深める場となる。したがって、教師側の一方的な説明に終わることのないよう留意することが大切である。

また、参加者が気軽に話し合えるような和やかな雰囲気づくりを工夫することによって、一層効果的なものとなる。なお、資料については個人に関するものは公開を避け、個人名を出さないなどの配慮が必要である。

## 学級・学年通信

学級・学年通信は、園からの諸連絡のほか、幼児の日々の活動や成長の姿を、情報として家庭に知らせることによって、より密接な家庭との連携を図ろうとするものである。

### 《参考資料》

- 「子どもと保護者の相談マップ」（京都府教育委員会 令和4年12月）
- 「『ことばの力』育成プロジェクト 保護者向け啓発冊子（3歳児～5歳児保護者用） 親と子の言葉の葉（しおり）」（京都府教育委員会 平成21年10月）